

といたしております。

「健やかな市民生活の創生」

福祉・医療の充実、安心・安全の市民生活とは切り離せない重要な課題であります。

そうした観点から、公立高島総合病院については、地域の中核病院また災害拠点病院等として、市民の皆様に、より充実した医療を提供できるよう、平成24年5月の開院に向けて、引き続き改築・整備を進めてまいります。

また、公立高島総合病院を核とする地域医療の連携を目指しまして、医療情報システム（電子カルテ）の構築にも取り組んでまいります。

次に、将来を担う子どもを安心して産み育てられる環境を支援するため、不妊治療にかかる経済的負担の軽減を目的として、市が独自に不妊治療費を助成する制度を創設します。



また、予防接種事業におきましては、引き続き子宮頸がん等ワクチンの接種経費を市の全額負担とする予算を計上いたしております。

就学前の子育て支援に関しましては、保育部門と教育部門が互いに連携し、総合的かつ一体的に進めることが大切であることから、健康福祉部内に新たに「子ども局」を設置し、従来の子育て支援や、子どもの虐待防止業務など、児童保育と幼児教育の分野を一体



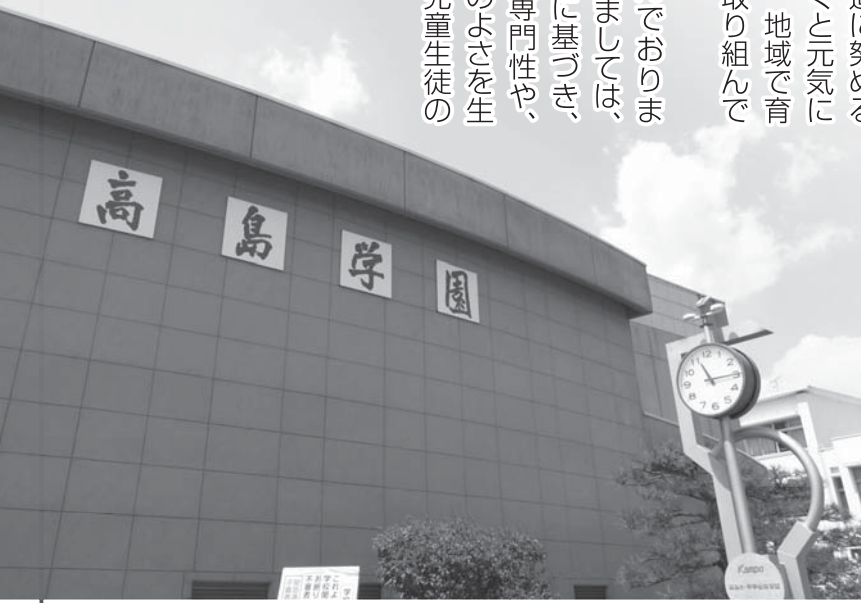
に一元化し、ワンストップサービスに努めます。

学習意欲や、学力の向上が期待できるものであり、引き続きこの事業展開について研究を重ねてまいります。

学校施設の整備に關しましては、補正予算に計上いたしましたマキノ東小学校屋内運動場改築事業、マキノ中学校柔剣道場耐震補強事業の早期完成に努め、市内小中学校施設の耐震化100%を目指します。

「やさしく、強く、志をもった高島の子」を育てる学校教育の充実と人と人をつなぎ、明るい地域をつくる社会教育の推進に努めるほか、子どもがすくすくと元気に育つ家庭教育への支援、地域で育む青少年教育の推進に取り組んでまいります。

昨年度から取り組んでおります、小中一貫教育につきましては、一貫したカリキュラムに基づき、小中学校教職員のもつ専門性や、きめ細かな指導等互いのよさを生かした指導を通して、児童生徒の



化して総合的に取り組んでまいります。

幼稚園・保育園の施設整備につきましては、今津愛隣保育園の整備助成に引き続き、安曇川藤波幼稚園の整備に向けた用地買収費等に支援をさせていただきます。

また、保育園の給食におけるアレルギー園児の対応として、マキノ東保育園に専任の給食調理人を配置して保育サービスの充実を図ってまいります。

高齢者支援につきましては、住み慣れた地域で安心して暮らせるように、介護施設や小規模多機能型居宅介護施設の整備事業に対し、支援を行ってまいります。

更に、移動手段のない高齢の方、いわゆる「買い物難民」と言われている方々の生活支援策として、集落を巡回する移動販売車の購入に対する助成制度を創設し、あわせて頑張る地域の小売業者を応援いたします。

そして、若者の定住支援や住宅リフォーム支援を目的とした「ハリアフリー、耐震補強、太陽光、地域材活用など、さまざまな補助制度の窓口を産業経済部商工振興課

以上が、主な施策方針でございますが、私がマニフェストで市民の皆様にお約束いたしました54項目の施策につきましては、この2年間で概ね5割程度が着手できたのではないかと考えております。市民皆様の、多様なニーズにお応えできたのかどうか、まだまだ気になるところでございますが、引き続き皆様との対話をもとに検証を重ね、マニフェストの実行に全力を傾注してまいりたいと考えております。

次に、平成22年度には大幅な行政組織の見直しを行ない、組織体制の整備に努めてまいりました。が、年度末には多くの退職者もあり、引き続き現員職員の人材育成と、スキルアップに取り組むとともに、今一度、気を引き締めて職員一丸となって精励してまいらねばならないと、心新たに致しております。

国におきましては、混沌たる政治情勢に、先行きが案じられるところでございますが、本市におきましては、「びわ湖源流の郷たか

しま」をテーマに市民協働で、各種事業に精力的に取り組んでまいります。

そして「みえる・きける・わかる」市政を念頭に「市民の生活がいちばん」「人・地域を大切にすまちづくり」を理念として、元気のある高島市づくりに邁進してまいりますので、議員各位はもとより市民の皆様の、より一層の力を添えを賜りますよう、お願いを申しあげまして、平成23年度の施政方針とさせていただきます。

